

てのあと

第5号



ニューズレター てのあと vol.5

発行日:2012年3月1日

発行元:特定非営利活動法人てのひら・人身売買に立ち向かう会

発行責任者:百瀬 圭吾

デザイン:村上 なほ

北タイビジットで感じたこと

理事 村上 なほ

乾季のタイで見る夕陽は、細かい塵のせいか絵筆でぼってりと描いたような金褐色の輪郭をしています。そんな風景に出会えるこの1~2月、私はタイ北部を訪れ山岳少数民族の子どもたちやタイ・ジャパニーズ・チルドレンと会ってきました。映画関係の仕事をしている私が初めてタイ山岳地帯を訪問したのは4年前です。女性のセクシュアリティ・ジェンダーをテーマとした作品取材の中で人身売買の事実を知り、「てのひら」が企画したタイスタディビジットに参加したのです。実際に少数民族の子どもたちに会ってみると、情報からイメージしていた悲惨さとはまた違う世界がそこにはありました。確かに経済的には貧しいのですが、漆黒の夜空に浮かぶ無数の星や、霧の中に響く鳥のさえずり、友を慈しみながら支え合う子どもたちの姿に、人が生きていく上で一番大切な豊かさがそこにあると感じたのです。「貧困にあえぐ可哀想な人々」ではなく「貧しいけれど、私達が失ったものをまだ大切に持っている人々」だと認識が変わったことで、私のなかにリスペクトの気持ちが生まれました。その後、数回に渡りおこなった写真ワークショップは、そんな子どもたちの柔らかく輝く感性が溢れたものとなりました。

同時に、そんな人々から何かを搾取し続けていく構造的な問題と向き合い戦わなくては、とも強く感じました。この問題を見過ごすことは、彼女ら彼らだけではなく、自分自身をも奈落に突き落とすことに他ならないと気付いたからです。人身売買を引き起こす搾取と支配の構造は、そのまま現在わたしたちが抱える原発問題や多国籍企業による食の支配問題や経済格差問題に繋がっていること。3.11を経てそんなことを実感するにつけ、ますます人身売買から目を逸らすことは出来なくなってきました。

今回のタイ訪問でも、少数民族とはまた違った状況にあるタイジャパニーズチルドレンやかつて日本で性的労働搾取にあったタイ女性たちの暮らし、そして今も人身売買の危険状態にある人々のことなど、難しい現実を改めて感じさせられることもありました。それらに対し自分に出来る事は余りにも小さいけれど、関わり続けることから次の一步を見出したいという思いを強くしたタイ訪問でした。



カレン人の子どもたち

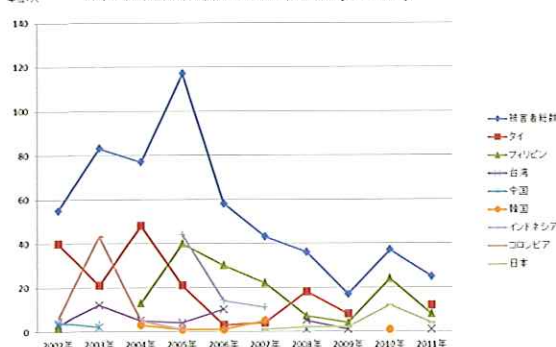
写真:宮沢 豪

日本における人身売買被害の現状 2011

代表理事 百瀬 圭吾

2011年の1年間で保護された人身売買被害者数と検挙件数がこの2月に発表されました。新聞報道等でも報じられましたが、一つの特徴として「被害者総数の減少」と「検挙件数の増加」の相反する現象が際立っていたことが挙げられます。また、警察庁の「匿名通報ダイヤル」で保護された被害者（ほとんどが日本国籍）は昨年より大きく減少しました。しかし、借金返済のために人身売買された東北出身者のケースもあったことを振り返ると、その背景に3.11も影響していたことが考えられます。

日本における人身売買被害者の国籍別内訳(02年-11年)



国籍別にみると、タイは昨年比で12名も増えています。この増加には、各都道府県警が関係機関と連携し摘発に力を入れたことも起因しています。また、外国人技能実習制度のもとで来日し、高収入を得られるようになるとブローカーから甘言をもって誘われて売春に従事させられた被害もあるそうです。このように変化を遂げる人身売買の現状を見つめながら、どのような取り組みが効果的かを究明し、政府に提言していく必要があります。

*この記事は、平成24年2月に警察庁から発表された報道資料を元としています。

活動だより

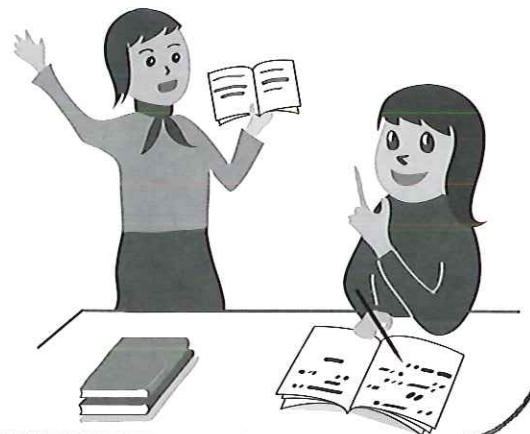
～ シェルター退所者のための日本語読み書き教室から ～

平成 23 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（文化庁）より受託、2011 年度ザ・ボディショップニッポン基金助成対象事業

退所者の日本語教室に行くたびにいつも感心させられるのは、学習者の皆さんの学ぶことへの前向きな姿勢です。日常生活で日本語を使うことの多い人、ほとんど使うことはないけれど学ぶ必要を感じて学ぼうとする人など、学習者のニーズは様々です。それぞれがそれぞれの事情の中で必死に考え、生きている姿を学習の場面でいつも感じています。

先日久しぶりに会った学習者の日本語が、前に比べてすごく上達していました。話を聞く中で分かったことは、職場で日本人とのやりとりが多くなっていて時には仕事の内容のことで言い合うようなことまでも聞いて、やはり必要性に勝るものはないと実感しました。また反対に、以前は日本語をとっても積極的に学び、良く日本語を話すことのできていた人が、日本語を話していなかったために少し上手く話せなくなっていたのにも驚かされました。

日本語に限らず語学学習を支えるものは生活の在り方に大きく関わっているものと思います。出来る限り学習者にとってのそれぞれのニーズにあった学習になっていくようにしていかなければならないと思います。まんべんなく「聞く」「話す」「読む」「書く」の学習を取り入れた身に着く日本語学習が提供できると良いと思います。つい欲張ってあれもこれもと思ってしまうのですが、一緒に学習する限られた時間の中で、それぞれの学習者の状況に合わせた日本語学習の方法を見つけ、本当の意味で、学習者の立場に立った日本語学習ができるよう努めていけたらと考えています。（日本語読み書き教室 講師 K）



コラム 南風通信 芦澤 俊

東日本大震災からもうすぐ一年が経とうとしています。この一年間色々なことがありましたが、この震災をバネにして、私達は前に進んでいるのかと問うといささか心許ない感じがします。

私は大学院で哲学を専攻し、ハイデガーという哲学者を研究していました。ハイデガーは、今日の現代文明に対し厳しい批判をした哲学者として有名です。ハイデガーの主張を、ごく手短かに要約するとこうなります。自然を含む世界の製作者は神であり、その製作物の中に人間も含まれている。そうすると、人間は神の理性を司る存在者になり、人間の理性は自然（世界）を意のままに操る（支配する）ことができる。ヨーロッパの人間はこのような解釈に沿って近代化を果たしました。

こうした理性主義に基づく近代化は、グローバル化となり「より多く」「より大きく」「より便利に」といった価値観が世界基準となっています。しかし、今回の震災を経験して反原発を掲げている人々は、こうした理性主義（近代化）の考え方にどこか疑いを持ち始めているからではないでしょうか。

テクノロジーによる地震の予知も大事ですが、人間は自然を支配することはできないという謙虚な姿勢、そして地震は必ず起きる（防げない）という前提での社会設計が今後求められるのではないかと感じています。



事務局 通信 2012.春

- 2008 年度から日本語読み書き教室と一緒に続けてきた小山富美江さんが、今年度を以って退任されます。本当にありがとうございました！小山さんのご多幸を心から祈念します。
- 昨年 4 月から今年 1 月まで事務局に従事して下さいだった杉本文恵さんが退職されました。今後、青年海外協力隊でバングラデシュに派遣される予定です。更なる飛躍を祈念します！
- 今年度、委託事業等で事業実施後精算となる経費をつなぐために「つなぎ融資」を受けることになりました。東京コミュニティパワーバンク様から 100 万円を融資頂いています。

入会案内とご寄付のお願い

てのひらの設立趣旨に賛同し、活動を支えて下さる方を大募集しています。ご寄付も大歓迎です。

一般会員	5,000 円	団体会員	10,000 円
賛助会員	一口 3,000 円	団体会員	一口 5,000 円

郵便振替口座 00190-4-280388

口座名義 てのひら～人身売買に立ち向かう会

他行からは 当座 019 口座番号 当座 0280388

口座名義 てのひら～人身売買に立ち向かう会



お問い合わせ 〒143-8799 東京都大田区山王 3-9-13 大森郵便局 留
E-mail ▶ info@tenohira-trafficking.org

TEL&FAX 050-1445-6947

HP ▶ <http://www.think-trafficking-project.com/>